

岡山済生会総合病院雑誌 投稿規定
Journal of Okayama Saiseikai General Hospital ISSN 0475-008X

- 1) **投稿者** 原則として岡山県済生会職員およびそれらの推薦者に限り、編集委員会からも投稿を依頼することができる。投稿論文は他誌および英文誌に投稿していないこと。
- 2) **投稿** 本誌は年1回発行し、投稿締切は11月末日とする。加工可能な原稿データと、原稿一式をPDF化したデータを、岡山済生会総合病院雑誌編集委員会事務局のE-mailアドレス journal-osh@okayamasaiseikai.or.jp へ送信する。E-mail送信とは別に1部を印刷し、所定の原稿提出票を添えて事務局へ提出する。
- 3) **原稿** 原稿は和文または英文とし、Microsoft社製Word, Excel, PowerPointで読み込めるデータ形式を原則とする。左記以外のソフトを使用する場合は使用ソフト名を明記する。Wordの設定値はA4縦、35字×36行、余白上35mm、余白下左右30mmとする。ヘッダーとして左上に投稿年月日(自動的に更新しないように)と筆頭著者名を、右上にページ番号を印字する。フッターとして下部中央にもページ番号を印字する。和文原稿はフォントサイズ12、フォントは明朝体とする。英文原稿はダブルスペースで記載し、フォントサイズ11、フォントはTimes New Romanとする。インデントは1段落目はなし、2段落目以降ありとする。
- 4) **掲載の種類** 総説、原著、研究、症例、報告、記録を明記する。
- 5) **論文の表題** できるだけ短いほうがよいが、表題から内容が推測できるようにわかりやすいものにする。漠然とした表題は避ける。なるべく略語は使用しない。
- 6) **著者** 著者数の制限はないが、症例報告は10名以内とする。複数の科または機関からの共同研究の場合は著者と所属の両方の右肩に1), 2)などの記号を付ける。
- 7) **原稿の書き方** 症例報告の場合は、患者の個人情報保護のために、患者が同定できるような表現を記載せず、入院第一病日、入院5年前の既往のような記載方法にする。顔面写真が必要な場合には目を隠すなどの配慮が必要である。

略語は特別なもの以外は、初出時に正式名を記し、その後括弧内に略語を表記する。
英語の固有名詞、商標機器名は大文字で始まる。薬品名は原則として一般名を使用し、商品名は使用しない。
外国語の人名、地名は原語のまま用いる。ただし日本語化しているものはなるべくカタカナにする。数字は算用数字を用い、単位記号はm, cm, mm, nm, mL, μ L, g, mg, μ g, ng, pg, g/dL, ng/mL, mol/L, mmol/L, %, $^{\circ}$ Cなどとする。
- 8) **論文の構成** 本文は大見出し;症例報告では要旨、キーワード、緒言、症例、考察、結語(まとめ)、文献の順で書く。研究では要旨、キーワード、緒言、対象(試料)と方法、結果、考察、結語(まとめ)、文献の順で書く。
- 9) **見出し** 1.1) a)の順にする。
- 10) **要旨** 600字以内で論文の主張点を簡潔に書く。
- 11) **キーワード** 論文の内容に関係した5語以内のキーワードを付ける。
- 12) **緒言** 研究の目的、従来の研究との関係、症例を提示する理由などを簡潔に書く。
- 13) **対象と方法** すでに発表された方法であれば、その概要(原理など)を説明して、詳細は文献引用でよい。新しい方法や改良法であれば、他人が追試できるように詳しく書く。主な試薬や機械のメーカーを記載する。
- 14) **結果** 簡単な結果は本文中に記述し、複雑な結果は図や表を利用する。原則として、本文では図の内容や表の数字の重複記載を避け、図や表の内容の結論を書く。
- 15) **表と図** 数字と文字で構成され、罫線以外の線を含まないものを表とし、それ以外のものは写真も含めて図とする。表と図は本文とは別に印刷し、その挿入場所を本文に朱書して指定する。適切な表題を表の上または図の下に付ける。その際、表はTable 図はFig.と記載すること。表や図の内容または語句について説明が必要な際は、表の下または図の表題の下に簡単な説明文を入れる。略語の説明、単位を忘れないこと。表や図の中の語句は日本語と英語のいずれでもよいが、1つの論文の中ではできるだけ統一する。同じ内容を表と図にすることは避ける。
- 16) **考察** 主張したい新しい事柄について、その結論に至る思考過程を簡潔に書く。他の研究者の得た結果との

関連を考察し、自分が得た結果との相違や矛盾があれば、それを記述する。「緒言」や「結果」の項で書かれたこととなるべく重複しないように注意する。殊に、結果そのものではなく、その意義を強調し、今後の課題、展望を述べる。

- 17) 学会で発表した抄録を論文化する場合は、その旨を本文の末尾に記載すること。
(記載例) 本論文の要旨は第〇回〇〇学会で発表した。
- 18) **文献** 文献は本文に用いられたもののみをあげ、引用番号は本文の引用順とし、本文中の引用個所には肩番号を付ける。文献の書き方は医学中央雑誌、PubMed の記載方法による。ただし著者名・編者名は3名までは併記し、4名以上の場合には3人目の氏名の後に、ほか、または et al を付ける。具体的には次のように統一する。
 - a) 雑誌の場合
引用番号) 著者名：表題. 雑誌名 発行年；巻（号）：開始頁－終了頁。
(雑誌の例)
 - 1) 大和人士, 人見 泰, 湯原淳良ほか：肺真菌症の臨床的研究. 真菌誌 1967；8（2）：150-157.
 - 2) Fujii M, Shiode J, Niguma T, et al: A case of follicular cholangitis mimicking hilar cholangiocarcinoma. Clin J Gastroenterol. 2014；7（1）: 62-67.
 - b) 単行本の場合
引用番号) 著者名：表題. 編者名, 書名, 版数, 発行所, 発行所の所在地, 発行年, 開始頁－終了頁。
(単行本の例)
 - 1) 今谷潤也：成人上腕骨遠位端骨折. 今谷潤也編, 肘関節手術のすべて, 第1版, メジカルビュー社, 東京, 2015, p10-21.
 - 2) Gersell DJ, Kraus FT, et al: Diseases of the placenta. ed. by Kurman RJ, In Blaustein's pathology of the female genital tract, Third edition, Springer-Verlag, New York, 1987, p769-780.
 - c) Web ページの場合
引用番号) 発行機関名：表題（調査/発行年次）, アクセス年月日, URL
(Web ページの例)
 - 1) 厚生労働省：平成21年人口動態統計月報年計（概数）の概況, アクセス2010年8月8日, <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/gengai09/kekka3.html>
- 19) **英文抄録** 和文原稿には英文による表題, 著者名, 所属, 抄録をつける。英文抄録に自信がない場合は、その中の専門語にのみ英語を併記して、Google の翻訳を使用し、できる範囲で努力して添付してください。編集委員が校正, チェックします。
- 20) 原稿は編集委員において2名以上で査読し, 受理は編集会議で決定する。また, 編集体裁を統一するため, 編集委員で一部を変更することができる。
- 21) 著者校正は原則として1回とする。
- 22) 別冊は原則として作製せず, 筆頭著者へPDFデータを配布する。別冊を希望する場合は著者校正時に10部以内の部数を朱書する。
- 23) 臨床研究に関する倫理的事項は当院の倫理審査委員会において審議し承認されていること。
- 24) 投稿者は, 個人, 病院, 施設が報酬を得た治験研究については, 必ず共著者を含めた全著者の利益相反の有無を開示すること。その他の研究については, 「岡山済生会総合病院における臨床研究等に係わる利益相反管理規程」に準じて開示すること。開示すべき事項がある場合は本文の末尾（謝辞, 学会発表の旨の後）に記載する。ない場合は「利益相反なし」を同箇所に記載する。
- 25) 本誌に掲載された論文等の著作権は, 著作者と岡山済生会総合病院に帰属する。
- 26) 本誌は表紙, 目次, 論文1ページ目, 英文抄録を当院のホームページに公開する。また, 全文をインターネット上へ掲載することについて了承しているものとする。
- 27) 本規定は2016年9月21日より施行し, 院内グループウェアおよび当院ホームページ上に公開する。
2016年10月14日, 2016年11月16日, 2016年12月15日, 2017年1月11日, 2017年4月12日, 2017年5月24日, 2017年6月8日改訂

28) 問合せ／原稿提出先

岡山済生会総合病院雑誌編集委員会 事務局

住所：〒700-8511 岡山市北区国体町2番25号

電話番号：086-252-2211（代表）内線 12121

E-mail アドレス：journal-osh@okayamasaiseikai.or.jp

担当者：学術支援センター 中山進也, 山根千明, 千田麻未